

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表 (2026年02月分)

ご協力ありがとうございました。2026年2月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 138 回答率 97.9%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	8社	16社	40社	35社	36社	135社
	5.9%	11.9%	29.6%	25.9%	26.7%	
	(9.1)	(14.4)	(34.8)	(23.5)	(18.2)	
売上高	7社	16社	40社	36社	37社	136社
	5.1%	11.8%	29.4%	26.5%	27.2%	
	(5.3)	(15.2)	(36.4)	(20.5)	(22.7)	
在庫数量	6社	20社	66社	25社	14社	131社
	4.6%	15.3%	50.4%	19.1%	10.7%	
	(4.7)	(10.2)	(59.1)	(13.4)	(12.6)	
販売単価	3社	16社	68社	40社	9社	136社
	2.2%	11.8%	50.0%	29.4%	6.6%	
	(0.8)	(9.1)	(53.0)	(28.8)	(8.3)	
収益状況 (粗利)	7社	15社	46社	39社	27社	134社
	5.2%	11.2%	34.3%	29.1%	20.1%	
	(6.1)	(15.3)	(37.4)	(30.5)	(10.7)	
稼働率 (生産・加工設備)	1社	11社	54社	30社	23社	119社
	0.8%	9.2%	45.4%	25.2%	19.3%	
	(2.6)	(13.7)	(49.6)	(22.2)	(12.0)	
入出庫の トラック台数	2社	11社	59社	42社	18社	132社
	1.5%	8.3%	44.7%	31.8%	13.6%	
	(2.3)	(10.2)	(53.1)	(23.4)	(10.9)	
現在の 景況感	0社	4社	48社	57社	25社	134社
	0.0%	3.0%	35.8%	42.5%	18.7%	
	(0.0)	(3.1)	(44.3)	(32.8)	(19.8)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	7社	93社	27社	6社	134社
	0.7%	5.2%	69.4%	20.1%	4.5%	
	(0.0)	(6.1)	(71.8)	(17.6)	(4.6)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2026年2月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日が1日少ない中、前月同水準の数字になった。悪い悪いと言いつつも、競争は激化するが悪すぎることもないとも考える。コロナ融資の返済と手形廃止の波から、資金繰り悪化は避けられないと考え、引き続き与信には十分注意する必要がある。
- ② 今月もトラック向けは安定した受注が続き、前年同月比では小幅ながらプラスを維持している。一方、店売り分野では需要の回復が鈍く、価格面でも強い動きが見られない状況。市況全体としては依然として慎重姿勢が強く、値上げに踏み切れる環境には至っていない。
- ③ 販売環境は依然として低迷状態が継続。市況もだいたい底に近づいてきたが、数量を求めて安値が出てくるケースもまだあちこちで散見される。高炉メーカーは、原材料コストアップにより母材価格を上げたがっているが、形鋼類はできても、薄板店売りはまだ時間がかかりそうな状況。

中板

- ① 中板は2月に入っても需要に大きな変化は無く、引き合いは低調。店売りも相変わらず小口当用買いに徹している状況。市況については、ここ数ヶ月新たな安値も聞かれず底値感も出てきたが、在庫にタイト感はない。

厚板

- ① <全体感>各分野で引続き需要は低位横這い。紐付き分野においては期末特需のような動きもなく、稼働日見合いの増減に留まっている。店売り分野においても目立った物件もなく、材料の荷動きは鈍い。
<分野別>建産機分野は例月から大きな動きなく推移している。来期の計画に関して、機種別では若干の変動はあるものの大きな増減はなく、当面は足元横這いでの推移が予想される。店売り分野は上記の通り、自社在庫もしくは市中当用買い中心の荷動きとなっている。
- ② 建設機械は、海外の回復が鈍く、低位横這いの状況が続く。店売り関連は、人手不足の影響で引き合いも少なく、売上も減少している。
- ③ 2月に入り、在庫出荷が激減している。需要減と同時に、高炉、電炉共に生産の上がりが良い状況で、結果として在庫量が急激に増加している。

一般形鋼・H形鋼

- ① 現場着工が遅れていて進まない。元請けや現場が人手不足になっている。中東紛争の激化で原油急騰が懸念される。
- ② この1年、H形鋼満載のトレーラーを終ぞ見かけたことはない。団地の景観は閑散を超えている。5月の連休明けまでが正念場である。
- ③ 4月以降はメーカーの値上げが必至のため、今後は価格が上昇基調になると思われる。2月は低調であったが懸念することはないと思われる。
- ④ メーカーの追加値上げが出揃う状況となり、流通の転嫁もようやく本格化しそうな雰囲気が出てきた。しかし、足元のスクラップ相場、新年度からの電力コスト上昇など、メーカーの転嫁は止まる環境ではない。我々流通の多くは未だ昨年分の転嫁に苦しんでいるが、躊躇している場合ではない。業界の財産である各社の機能を未来に継承していくためにも、採算改善に取り組むべきである。

異形棒鋼

- ① とにかく荷動きが悪く、回復の光は見えない。メーカーの販売姿勢（値戻し）は固く、市況を支えているが、販売数量の落ち込みは大きく、月次採算は取れない状況にある。
- ② 世界情勢含め先行き不透明な状況。円安、原油の高騰等の影響がどう出るのか、静観するしかない。商いは現行値の維持に努める。
- ③ 2月は稼働が少なく動きも良くなかった（20%ダウン）。3月もあまり変わっていないが、少しは戻ると思われる。相場はメーカーが強く横這い。

平鋼

- ① 状況的には前年並みなので悪くはないが、固定費、運送費などコスト上昇分を補う値上げが今後の課題。
- ② 2月の店売り倉出しは、前月比横這いで推移。社内加工は予定していた案件と日々の受注分がたまたま重なり一時忙しくはなったが、3月に入ると落ち着いている。また、平鋼メーカーからの値上げ玉が1月中旬より入荷し、仕入れ価格も上昇しているが一般形鋼の価格が上昇していないので、4月以降での価格転嫁を目指している。4月契約での東京製鉄売り出し次第では状況が一変することもある。

軽量形鋼

- ① 10月より受注量の減少傾向が継続。年度内は低位にて推移する見込み。
- ② 2026年後半までは低調に推移する見通し。大型物件は後半から動き出すか。そのため他メーカーも物件確保のため、安値が出てきつつある。

鋼管

- ① 半導体向け、自動車向けで微増。

構造用鋼

- ① 需要は変わらず低位横這いが続いている。自動車で一部堅調。建機は低位、産機で向け先により回復傾向も見られるが、盛り上がりには欠ける。店売りは活気に欠ける状態。価格はメーカートラブルによりやや締まったが限定的。概ね中心値に変わりがなし。在庫は出荷見合いで横這い。

磨棒鋼

- ① 自動車、建機向け等の紐付きは一部を除き低位横這いが続く。若干の回復の兆しも見られるが、一進一退の状況に変化はなさそう。店売り品も変わらず、大きな変化なし。

ステンレス

- ① 引続き需要はさえない状況。建材の案件が特に少ない。Ni系ステンレスは日本製鉄がさらに2万円/トンの値上げを行い、昨年8月～今年2月までで累計5万円/トンの値上げとなった。輸入品も値上げが続いており、乏しい実需の中でも値上げを進めていく必要がある。ユーザーの体力が心配である。

その他

<スクラップ>

- ① スクラップの国内相場は、輸出市況の上昇を要因とし、約1年半振りの高値となった。今後の見通しとして、中東情勢の悪化がスクラップ市況にどのように影響を与えるかは現時点では読みづらく、様子見の状況。

<金属表面処理>

- ① 2月は紐付きが主体となり、物件物は昨年の受注残を継続加工。スポットの引き合いは件数的には多い状況であったが、実務に繋がるものは小ロットであった。3月も2月と同様に扱い量は期待できなく、紐付きが中心となる予想。